

宮大工を源流とする中小から大手までの建設業者の存続メカニズムを題材にした著書が、中小企業研究奨励賞(商工総合研究所主催)の本賞に輝いた。静岡文化芸術大文化政策学部准教授。東京都出身。42歳。

—受賞の感想は。

「老舗の研究はこれまで、大企業の成長や拡大が中心だった。あまり語られてこなかった業界にスポットを当て、『存続』という観点で研究したことを評価してもらい、うれしい」

—著書の内容は。

「江戸時代以前に創業した建設業者4社の古文書な

老舗企業の存続を研究する

そね ひでかず
 曾根 秀一 さん (中区田町)



この人

「明治時代の廃仏毀釈(きしゃく)は宮大工にとつて

—具体的には。

「具体的なには、

「現代の事業承継のヒントになる部分がある」

「経営戦略を分析し、家業として脈々と受け継いでいる例もあれば、全国に支社を構えて成長した企業もある。手法はさまざまだが、現代の事業承継のヒントになる部分がある」

「地域に根差した産業を研究することが自分の使命だと思っている。これまでも筆や酒などの伝統産業を取材してきた。浜松でも楽器やウナギ養殖の歴史について深掘りしたい」

—今後の研究テーマは。

「地域に根差した産業を研究することが自分の使命だと思っ

大相撲に造詣が深い。横綱鶴竜と親交がある。

(豊竹 喬)